

お知らせ

〇きのご観察会；10月24日（土曜日）は吹春先生指導のきのご観察会です。携行品；弁当、飲み物、雨具、お椀、あればカメラ。9時30分第二駐車場集合。小雨決行。ご家族や友人の同伴を歓迎します。

〇里山公開講座；別紙の要領で森林研究所主催の里山公開講座が実施されます。テーマは「広葉樹林の管理」です。受講希望者はちば里山センターあて申込下さい。電話：0438-62-8895 メール info@chiba-satoyama.net

活動の記録

9月21日（月・敬老の日）曇 「ニホンジカとの共生を目指す森づくり」活動体験 参加者総数 28名

福島動物班長（県森林研究所）を講師に会員、募集チラシやちば里山センター・環境情報センターなどのイベント情報、森林インストラクター会のMLなどを見て参加された方々、中部林業事務所や県民の森関係者など、多くのお客様をお迎えし、ニホンジカの生息状況調査、ニホンジカの生態や植生への影響についての講義、食害調査、植生保護（ツノ砥ぎ防止金網設置）などの活動を体験しました。

〇調査要領説明；調査開始前にシカを刺激しないため、島入口前で朝のミーティングと調査要領説明。福島講師から調査各班のコース、目撃情報やフィールドサインの見方と記載方法の説明、各コース担当の7班に班分け。坂本代表安全上の注意、中部林業事務所森林管理課長挨拶の後、5・6名ごとに時差を設けて吊橋を渡り入林。

〇シカ生息状況調査；シイ・カシ林崖下や尾根など健脚コースの1・2班、スダジイ林調査の3・4班からホテイ岬コースの6・7班まで、10時15分一斉にスタート、ヤブからシカを追い出すようにしながら、所々で動物の気配に耳を澄まし、足跡や糞を探して、島全域を30分間にわたり踏査した。10時30分、3班の坂本さんが、ほこら山から続く尾根で西に走って逃げるシカ3頭を発見。10時32分、1班の占部さんが島北側の崖下を東方向に走る1頭（最後尾）を目撃、30メートルほど後方にいた伊藤さんは、ドッドッドと走る音と水に飛び込む音を聞き、水面に波紋を確認した。その後、ボートの釣り人に確認したところ、「3頭が対岸に向かってかなりのスピードで泳いでいた。角は見えなかった」とのことであった。目撃等の情報をまとめると、3頭のシカが初めに尾根を西に向かって逃げ、その後島の北側を東へ逃走、以前から上陸地点の一つとつと考えられている場所付近から湖に飛び込み対岸へ逃げたと考えられる。なお、目撃個体に角が確認されなかったことから、3頭はメスとその子供2頭からなる群れであったと推定される。



健脚コースの踏査に向かう1班



痕跡も見逃さないよう注意深く



講義に熱心に聴き入る参加者

〇ニホンジカの生態と植生について講義；教材資料「ニホンジカの生態と植生」「ニホンジカとの共生を目指す森づくり・豊英島における挑戦」「センサーカメラがとらえた豊英島の動物たち」を用い福島講師によりシカの特徴、食性、生態、植生に与える影響、房総半島におけるシカの生息密度と低木層の種別優占度の関係、更に豊英島における森づくりの歩みとシカとの共生を目指す森づくりへの挑戦等々の講義が行われ、一同興味深く聴き入った。参加者からは、「房総半島でニホンジカが増えた要因は？」、「豊英島に来るようになったのはいつごろから？」、「地球温暖化の影響は？」など、次々に質問が飛び出し、白熱した質疑が続いた。

この活動は2009年度セブン・イレブンみどりの基金の公募助成を受けています

○**食害調査**；大賀班・福島班・伊藤班の3班に分かれて、巨木林&景観管理林区域およびマダケ林区域の食害状況を調査した。調査内容は、植物の種名、食害の程度（無、軽、中、重の4ランク）、食害の部位（葉・枝など）を記録した。また、各班とも巨木林区域に設置された植生保護柵内外の林床の植生の違い（柵内は植物が多く、柵外は植物が少ない）を観察し、シカが植生に与える影響の大きさを実感した。

○**ツノ砥ぎ防止金網設置**；坂本班・福島班・伊藤班の3班に分かれ、巨木林区域（モミ混交林）、モミ・ツガ林区域、マダケ林区域のモミやネズの小径木を亀甲金網で保護した。



ランク2それとも3？食害調査



ツノ砥ぎ防止金網で保護



昼食は和気あいあいと



あわただしい活動でしたが、充実の楽しい一日でした。昼休みは、市原の会員有志特製の具たくさん味噌汁をいただき、参加された方々の1分間スピーチで交流を深めることも出来ました。連休の中日、渋滞の中、遠路ご参加の皆様お疲れ様でした。またのご参加をお待ちしています。

清和県民の森、ちば里山センター、県森林関係の方々のご支援ご協力有難うございました。

○**ウチダシミヤマシキミ**；大賀先生はこの日ウチダシミヤマシキミを初確認されました。ミヤマシキミの仲間ですが葉の裏側に葉脈が、打ち出したように浮き出ているのが特徴です。これにより豊英島の植物確認種数は累計313種になりました。崖下のイズノシマダイモンジソウは未開花でした。



小さな島に多くの生きもの

袖ヶ浦市 藤林 範子

皆様の大切な森で、楽しい一時を過ごすことができました。本日お世話になった皆様、普段森づくりの活動をされている会員の皆様、ありがとうございました。豊英島は、普段車で通り過ぎるだけでしたが、こんなに小さな島を、様々な生き物が利用していることに、正直驚きました。

巨木林の樹上に、何かが住んでいる？もしくは食事に来ている？気がするのですが、寝袋にくるまって、木の下で夜通し待ち伏せしてみたいです。「なぜ、シカが湖を泳いで島に来るようになったのか」に、共生のための大事なヒントが隠されているような気がしました。

貴重な里山活動体験

君津市／横浜市 佐々木 寛

本日はお疲れ様でした。また、大変お世話になりました。天気が心配でしたが、ちょうど良い気候でした。このような活動に参加するのは初めてで、植物の（未だに君津の自宅にある樹や植物も）名前も分からないのが多い初心者です。これから植物や動物も先ずは名前から覚えていきたいと思えます。

数年前は、休みのたびに日本中を回っていて日本はやはり里山が原点だなと感じて、縁もゆかりもありませんが、君津の山中に家を衝動買いしてしまいました。普段は仕事先がある横浜にいますが横浜も一部ですが結構山があり、うちの崖の上にある竹林にはリス（外来種か？）がいたり、アパートの横の川では蛭が見えます。また、君津では太陽光発電、熱利用、池を作って（全て中古品ですが）、いろいろやりたいこと（炭焼き等、他にも趣味あり）、たまに日曜仕事もあり毎回参加できませんが、できるだけ里山を守る活動に参加したいと思います。本日は大変貴重な体験でした。これからもよろしくお願ひします。

